

夏秋きゅうり品種「つや太郎」

きゅうり生産を拡大するためには、品質が優れ、省力型品種の選択導入が必須条件である。夏秋きゅうり品種「つや太郎」は、品質・収量性に優れ、うどんこ病・べと病に強く、側枝の節間長が短いことから栽培管理面で省力型である。

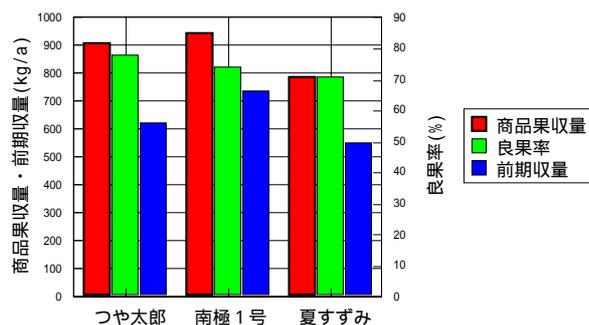


図1 収量・品質 (平成7年)

「南極1号」に比較して、初期収量は劣るものの、商品果収量は同等で、良果率は優る。

「南極1号」に比較して、「つや太郎」はべと病・うどんこ病ともに発生が明らかに少ないが、「夏すずみ」よりは劣る傾向である。

表1 病害発生状況 (平成8年)

品種	露地 夏秋		露地 抑制	
	べと病	うどんこ病	べと病	うどんこ病
つや太郎	4	2~3	4	2
南極1号	5	5	5	5
夏すずみ	2~3	1	3	1

0 (無発生) ~ 5 (多発)

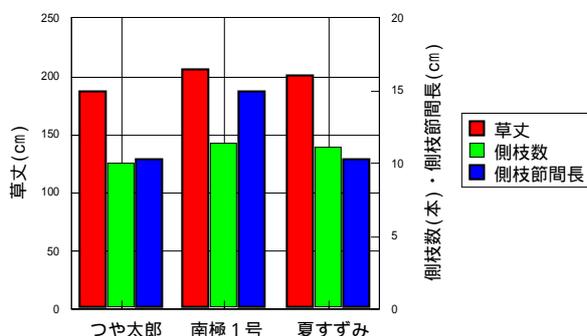


図2 生育 (平成7年)

「つや太郎」は草丈の伸張が鈍く、主枝10節目の第1節間長も短い。